青木氏、大差で3選

参院選島根選挙区

民主・田村氏及ばず

共産・佐々木氏が健闘

投票率73.27%　全国1位に

開票結果（13日0時55分 選管最終）

当212,498票	青木　幹雄	64	自民現
次118,718票	田村　節美	59	民主新
55,474票	佐々木洋子	47	共産新
27,591票	加納　克己	54	社民新
11,808票	山口　昌司	44	諸派新

加藤紘一幹事長（右）、野中広務幹事長代理（左）と笑顔でガッチリ握手する青木幹雄さん＝12日午後9時15分すぎ、東京・平河町、自民党本部

参院選が十二日投票され、島根選挙区（改選数一）は即日開票の結果、自民党現職の青木幹雄氏（六四）＝党副幹事長＝が、県内の全市町村で得票トップを取る完全勝利で二十一万票を獲得、次点の民主党新人、田村節美氏（五九）＝前松江市議＝に約九万四千票の大差で三選を果たした。いずれも新人で共産党の佐々木洋子氏（四七）＝党県委員会常任委員＝は全国的な上げ潮ムードに乗って健闘、社民党の加納克己氏（五四）＝党県連合副代表＝は出遅れが響いた。諸派（自由連合）の山口昌司氏（四四）＝医師＝は支持を広げられなかった。注目の投票率は七三・二七％で全国一位を奪還。前回七年参院選の六七・〇九％を六・一八㌽上回った。

（23面に関連記事）

今回の参院選から投票時間が午後八時まで二時間延長され、開票作業は県内五十九の開票所で、午後八時四十五分から順次始まった。

同日午後九時すぎ、早くも青木氏の当選が確実になった。青木氏は党の選対責任者で、同日午後には党務のため上京。東京・平河町の党本部の開票速報場で、党幹部と並んで当確の報を待っていた。当選を確実にすると加藤紘一幹事長らと固く握手した。

松江市灘町の選挙事務所は、県関係の自民党国会議員、県内政財界のトップら支援者約三百人でぎっしり。青木氏の長男で会社員の一彦さん（三七）が「当選は皆さんのおかげ。国政と県政のパイプ役になる」と父親に代わって礼を述べ、歓声にこたえた。

青木氏は一年前に党公認を得て、早くから盤石の態勢を敷いた。桜内、竹下、亀井、細田の各衆院議員系列を一本化。県内三つの衆院小選挙区ごとに選対を設け県議、市町村議らを動員した。二期十二年の実績と知名度で農村部、漁村部など保守層の厚い地域をはじめ、出身の出雲部など県内全域で満遍なく票を伸ばした。

田村氏は連合系労組が一本化した民主党からの出馬で、旧総評系と旧同盟系の労組がスクラムを組んだ。しかし、出馬表明が公示の約一カ月前と出遅れ、市議を務めた松江市以外で知名度が低かったのが痛手。労組の末端浸透と、無党派層など浮動票を取り込むまでには至らなかった。

佐々木氏は女性や若年層の支持を増やし、党勢拡大の勢いを県内に呼び込んだ。特に消費税の三％引き下げを中心にした訴えが、支持に弾みを付けた。

社民の加納氏も出遅れが響いた。八年の衆院選で候補を立てた石見部は党基盤があり、一定の支持を集めた。党組織が弱い出雲部の都市部で伸び悩んだ。

山口氏は比例代表とのセット戦術で、独自の戦いを挑んだが、浸透を図れなかった。

青木幹雄氏の話　**農林水産業の振興を**　三選を果たすことができ、島根の有権者の皆さんに深く感謝する。経済対策とともに、島根の産業の軸である農業と林業、水産業の振興に全力を挙げて取り組みたい。島根は中山間地域が広いので、対策をきちんとやることで、住民が安心して暮らせるようにしなければならない。国政と県政の懸け橋として今後六年間、ご恩返しのために頑張っていきたい。

青木幹雄氏の略歴

自民党副幹事長。竹下登衆院議員秘書を経て、昭和42年から島根県議を5期。同61年の参院選に初出馬し当選。党国対副委員長、大蔵政務次官、参院農水委員長など歴任。党県連会長、県漁連顧問、参院党筆頭副幹事長。早稲田大法学部中退。島根県大社町杵築北在住。当選連続3回。64歳。

厚い保守地盤フル活用　＜解説＞

青木氏　経済対策で支持得る

三選を果たした自民党の青木幹雄氏の勝因は、二期十二年の実績と、厚い保守地盤をフル活用した新手の党戦術だった。最大の争点になった経済対策で、公共事業の導入を唱えながら、自らの経験と政策の得意分野を強調。党組織を衆院小選挙区ごとに三分割して、得票を競う仕組みが相乗効果を生んだ。

青木氏は入閣間近のうえ、六年の任期中に二十一世紀を迎える。参院の中核を担い、新世紀の道筋を付ける役割が待っている。従来から主張している国と県のパイプ役だけでなく、さらに広い視野での活動が求められることになろう。

経済対策で青木氏は、島根の社会基盤整備を進めるためにも、公共事業が必要と訴えた。これに対し他の新人四候補は、公共事業一辺倒の自民政治からの転換を主張。福祉優先、介護保険導入をにらんだ高齢化対策の重要性を主張した。

投票結果から見ると、県内の有権者は閣僚候補の青木氏に、引き続き公共事業を推進する「国政との力強い懸け橋」を期待したといえる。

また竹下登元首相が「市町村ごとに得票率、投票率を競って」と号令をかけ選挙区に張り付いたのが利いた。さながら市町村対抗戦の様相。地方議員や首長に、衆院選と来春の統一地方選の前哨選をも意識させ、競り合いがいっそう激しくなった。

一方、非自民陣営のうち民主党と社民党は、連合島根が軸になった四者連絡会で、統一候補の擁立に失敗したのが最後まで響いた。統一候補を模索したのは「非自民」で一本化しなければ勝利はおぼつかない、との認識からだが、分裂選挙で自民にさらに余裕を与えることになった。

調整断念を受け民主・田村氏、社民・加納氏の出馬表明は、いずれも公示の約一カ月前。野党の再々編が有権者に分かりにくいことに加え、両候補とも県内での知名度はいまひとつで、組織の動きも一部を除いて鈍かった。共産党の佐々木氏がアピールした消費税率の引き下げは、無党派の食い込みに成果を挙げた。

（本社報道部・南木晃）

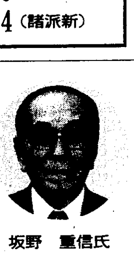
市町村別得票と投票率　島根選挙区

市町村名	青木幹雄	佐々木洋子	加納克己	山口昌司	田村節美	投票率（％）
松江市	26,013	10,933	3,367	1,821	25,834	63.39
浜田市	11,139	2,508	2,332	762	7,103	67.27
出雲市	23,139	6,623	1,668	1,005	11,510	69.20
益田市	13,165	3,784	2,838	800	5,684	69.19
大田市	8,821	3,044	2,204	545	4,483	72.06
安来市	6,655	2,323	851	448	6,290	69.97
江津市	5,788	2,582	1,501	971	3,423	71.23
平田市	9,260	1,581	615	347	5,173	73.92
市計	103,980	33,378	15,376	6,699	69,500	67.86
鹿島町	2,465	413	162	131	1,635	69.87
島根町	1,944	229	68	61	714	80.78
美保関町	3,018	502	169	107	779	79.51
東出雲町	2,645	1,069	220	175	2,424	74.17
八雲村	1,691	611	165	82	1,413	75.61
玉湯町	1,835	365	150	110	1,076	74.94
宍道町	3,113	718	326	145	1,625	80.97
八束町	1,394	477	90	60	662	73.34
八束郡計	18,105	4,384	1,350	871	10,328	75.99
広瀬町	3,187	654	333	162	1,853	81.44
伯太町	1,482	462	168	75	1,217	77.37
能義郡計	4,669	1,116	501	237	3,070	79.95
仁多町	3,716	533	333	114	1,181	85.40
横田町	3,077	626	282	147	1,102	82.67
仁多郡計	6,793	1,159	615	261	2,283	84.09
大東町	4,575	1,052	2,181	157	1,712	81.86
加茂町	2,356	357	528	77	990	81.34
木次町	3,827	551	441	147	1,714	83.82
大原郡計	10,758	1,960	3,150	381	4,416	82.37
三刀屋町	3,525	443	649	100	1,006	84.54
吉田村	1,310	109	72	20	374	92.05
掛合町	2,045	185	127	59	475	88.38
頓原町	1,170	268	87	47	515	86.60
赤来町	1,440	371	162	58	405	84.63
飯石郡計	9,490	1,376	1,097	284	2,775	86.45
斐川町	8,562	2,109	652	239	4,405	78.99
佐田町	1,945	419	100	65	698	85.48
多伎町	1,834	362	103	53	519	87.18
湖陵町	1,870	462	263	67	692	75.77
大社町	7,693	1,042	285	183	1,618	82.02
簸川郡計	21,904	4,394	1,403	607	7,932	80.71
温泉津町	1,269	292	211	136	896	78.34
仁摩町	1,540	446	198	118	838	76.17
邇摩郡計	2,809	738	409	254	1,734	77.18
川本町	2,001	310	179	201	597	83.60
邑智町	1,820	422	194	141	741	84.16
大和村	869	128	61	67	382	85.86
羽須美村	964	97	72	59	407	82.79
瑞穂町	2,156	516	362	85	519	85.66
石見町	2,470	529	188	143	1,009	83.88
桜江町	1,510	266	119	255	451	86.31
邑智郡計	11,790	2,268	1,175	951	4,106	84.55
金城町	2,006	378	232	97	771	82.13
旭町	1,199	129	81	41	951	89.30
弥栄村	888	60	39	32	299	87.20
三隅町	2,576	544	340	158	1,768	81.96
那賀郡計	6,669	1,111	692	328	3,789	83.85
美都町	993	397	179	30	283	84.72
匹見町	917	111	191	43	192	88.75
美濃郡計	1,910	508	370	73	475	86.42
津和野町	1,774	616	326	132	1,079	78.02
日原町	1,519	308	242	86	864	83.80
柿木村	670	237	97	46	227	86.20
六日市町	1,675	728	268	166	509	73.53
鹿足郡計	5,638	1,889	933	430	2,679	78.85
西郷町	3,712	644	220	159	2,946	75.41
布施村	183	15	9	8	163	86.91
五箇村	830	99	44	50	461	88.06
都万村	654	88	38	34	626	81.36
海士町	957	79	79	57	694	84.60
西ノ島町	1,326	236	116	108	594	74.82
知夫村	321	32	14	16	147	81.53
隠岐郡計	7,983	1,193	520	432	5,631	78.33
町村計	108,518	22,096	12,215	5,109	49,218	80.79
県計	212,498	55,474	27,591	11,808	118,718	73.27

鳥取は坂野氏5選

鳥取選挙区開票結果（12日23時45分 選管最終）

当128,085票	坂野　重信	80	（自民現）
次101,403票	田村耕太郎	34	（無　新）
45,920票	松永　忠君	59	（社民新）
40,965票	市谷　知子	30	（共産新）
4,919票	沖野　寛	44	（諸派新）


坂野　重信氏

鳥取選挙区（改選数一）では、自民党現職の坂野重信氏（八〇）が、無所属新人の田村耕太郎氏（三四）の猛追を退けて逃げ切り、連続五度目の当選を果たした。社民党新人の松永忠君氏（五九）は、党勢が低迷する中で伸び悩み、共産党新人の市谷知子氏（三〇）は全国的な上げ潮ムードに乗り票を伸ばした。過去最多の五人が立候補し激戦を展開、投票率は七〇・〇四％で前回（平成七年）の六七・五七％を二・四七㌽上回った。

坂野氏は、四期二十四年間の実績を背景に、序盤から優勢に選挙戦を展開。公共事業推進による基盤整備などを訴え、厚い保守地盤などに支えられて、全県的にほぼ満遍なく得票し当選した。しかし、坂野氏の年齢に対する有権者の反発は少なくなく、前回獲得した十八万票を大きく減らす結果となった。

田村氏は、今年二月に出馬を表明。それ以後も、日本海新聞一面での論説活動を続けるなど、幅広い知名度に加え、個人演説会を中心とした独自の選挙戦を展開。世代交代を期待する無党派層などを引きつけたが及ばなかった。

松永氏は、出遅れの中で、県西部を中心に浸透を図ったものの、党組織の弱体化もあって、最後までばん回できなかった。市谷氏は、全国的な共産党の上げ潮ムードにも乗って健闘した。沖野氏は、知名度がほとんどなく、出遅れが最後まで響いた。

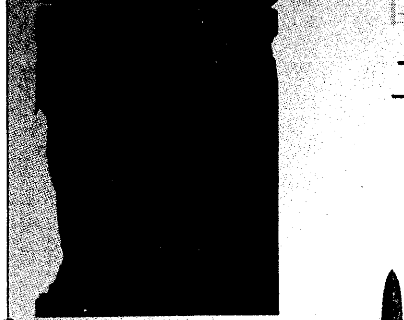
比例代表党派別得票

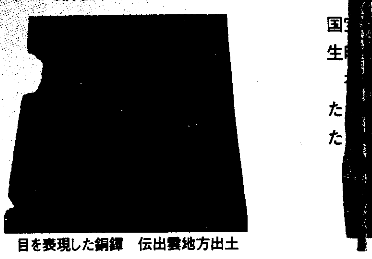
鳥取（1時35分選管最終）

	得票数
自民	97,169
公明	55,109
民主	49,111
社民	37,119
共産	35,102
自由	22,826
新社会	8,070
スポ平	2,891
二院ク	2,793
女性党	2,748
さきがけ	2,473
自由連	1,907
青自党	1,606
新風	281

島根（1時15分選管最終）

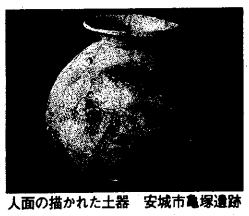
	得票数
自民	157,582
民主	98,040
公明	51,625
共産	44,805
社民	27,136
自由	26,880
新社会	5,656
さきがけ	3,600
女性党	2,765
自由連	2,748
スポ平	2,571
二院ク	2,566
青自党	954
新風	306


トンボと渦巻文　加茂岩倉18号銅鐸

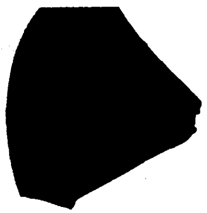

目を表現した銅鐸　伝出雲地方出土

国宝指定記念
青銅器の世界
神庭荒神谷と加茂岩倉

[illegible]成10年度[illegible]荒神谷遺跡出土の[illegible]剣358本[illegible]銅鐸6個[illegible]銅矛16[illegible]が国宝に[illegible]定され[illegible]した。こ[illegible]だけ大[illegible]の青銅器[illegible]が国宝[illegible]指定さ[illegible]ることは[illegible]が国で[illegible]初めての[illegible]ことです[illegible]加茂岩倉[illegible]跡出土の[illegible]鐸も含[illegible]これらの[illegible]青銅器は[illegible]、わが国[illegible]弥生[illegible]代の文化[illegible]研究する[illegible]えで欠[illegible]せない[illegible]大な情報[illegible]含まれ[illegible]ます。
[illegible]庭荒神谷[illegible]の発見[illegible]13年。[illegible]じ鋳型[illegible]鋳造さ[illegible]銅剣が[illegible]組あるこ[illegible]や鋳型[illegible]特徴等も[illegible]らかに[illegible]りまし[illegible]また[illegible]茂岩倉遺[illegible]の銅鐸[illegible]中には[illegible]面の模[illegible]の特徴[illegible]「出雲[illegible]説」の可[illegible]性や国[illegible]各地の銅[illegible]と同じ[illegible]型で製[illegible]れた[illegible]がある[illegible]等が[illegible]されて[illegible]ます。
[illegible]の展示[illegible]、荒[illegible]遺跡や[illegible]茂岩倉[illegible]の青銅[illegible]類とそ[illegible]会の様[illegible]探り[illegible]。
[illegible]、この[illegible]島根[illegible]りま[illegible]安来[illegible]わらけ[illegible]穴墓[illegible]の重要[illegible]財「金[illegible]環頭[illegible]も併[illegible]展示[illegible]。


人面の描かれた土器　安城市亀塚遺跡

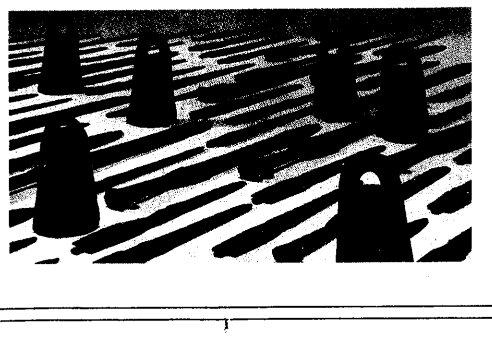
サメ？の描かれた土器　出雲市白枝荒神遺跡


ウミガメ　加茂岩倉10号銅鐸

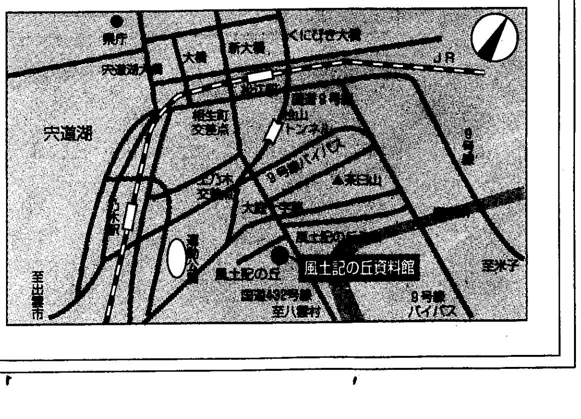
■特別講座
・7/25(土)「出雲の弥生時代について」島根県教育委員会　松本岩雄氏
・8/ 8(土)「荒神谷遺跡について」　島根県教育委員会　柳浦俊一氏
・8/22(土)「加茂岩倉遺跡について」　加茂町教育委員会　吾郷和宏氏
・8/29(土)　遺跡探訪会　島根県教育委員会　足立克己氏
※講座会場は島根県立八雲立つ風土記の丘研修棟、探訪会はバスツアー
講座は無料、探訪会は有料

■交通　JR松江駅一畑バス③のりば
八雲方面行(約18分)風土記の丘入口下車
大庭行(約18分)風土記の丘下車
タクシー：JR松江駅から15分(国道432号線)

■特別講演会
●日時：8/2(日)午後1時～5時
●会場：島根県職員会館多目的ホール　松江市内中原町
●参加は無料
●内容：1部　フリートーキング「今明かされる島根の弥生時代」
講師　島根大学教授　田中義昭氏
島根県教育委員会　丹羽野裕氏
島根県教育委員会　椿　真治氏
出雲市教育委員会　米田美江子氏
2部　対談「Q＆Q　大量青銅器と出雲世界」
奈良大学教授　酒井龍一氏
愛媛大学教授　下條信行氏
島根県教育委員会　勝部　昭氏



平成10年7月18日(土)～8月30日(日)
開館時間＝午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
休館日＝毎週月曜日（但し7月20日は開館）
入館料＝一般500円(400円)　大学生300円(200円)　高校生以下無料　(　)内は20名以上の団体
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
〒690―0033　松江市大庭町456　TEL0852―23―2485　FAX0852―23―2429

■主催　島根県教育委員会・財団法人島根県文化振興財団
島根県立八雲立つ風土記の丘
■協力　松江市教育委員会・斐川町教育委員会・加茂町教育委員会
■後援　朝日新聞松江支局・毎日新聞松江支局・読売新聞松江支局
産経新聞松江支局・日本経済新聞社松江支局
中国新聞社松江総局・山陰中央新報社・新日本海新聞
島根日日新聞・共同通信松江支局
時事通信松江支局・NHK松江放送局・山陰放送
日本海テレビ・山陰中央テレビ放送・エフエム山陰